

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月13日

協議会名: 安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>南安タクシー(有) 安曇観光タクシー(株) あづみの第一交通(株)</p>	<p>・デマンド交通「あづみん」区域型運行。 ・地域間幹線系統路線に接続する7系統を運行。 ・車両減価償却費国庫補助金(南安タクシー(有)2台)を受給。</p>	<p>既存デマンド交通の課題を改善しサービス拡充を図るため、令和3事業年度から継続して待ち時間の見える化、予約断り件数の改善、区域をまたぐ場合の運行改善、休日(土曜日)の運行導入の検討を行った。改善に向けた方策の一つとして新たに導入する予約管理システムを決定し、令和4年11月からの実装に向け、運行事業者及び運行管理者との協議、調整を行った。 長期化しているコロナ禍での移動に対応するため、長野県が発令する松本圏域における感染警戒レベルに応じて乗車人数の制限を行ったり、車内での感染防止対策を継続して実施した。</p>	<p>A 当初の計画通り事業を実施することができた。</p>	<p>B 年間目標利用者数を81,990人に設定していたが、R4事業年度の実績は、年間利用者数79,626人、日平均利用者数は327.6人であり、目標達成には至らなかった。前年度と比べると利用者数は約750人増加したが、withコロナの生活が長期化し、公共交通に頼らない移動スタイルが定着しており、コロナ禍前の水準まで利用者数が回復するか見通せない状況である。 一方で、障がい者等の通所や免許不保持者の利用は継続しており、自由な移動手段を持たない、いわゆる交通弱者の移動を確保するという事業目的は達成することができ、一定の事業効果が維持されている。</p>	<p>令和4年11月から、予約管理システムの更新に合わせ新運行を開始した。 新運行の具体的な内容として、①乗車・降車時刻の明確化、②予約方法の充実(アプリ予約導入)、③土曜日の実証運行、④運行エリアの改善を実施している。 (①②は予約管理システム更新に伴う実装事業) 上記の運行改善を行うことで既存利用者に加え新たな利用者を獲得することで、本市における持続可能な地域公共交通としてデマンドを維持していくことが求められる。 また、引き続きコロナ禍に対応した運行を継続し、安心して利用することができる地域公共交通として維持していく。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月13日

協議会名:	安曇野市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>安曇野市は長野県中央部西側に位置し、平成17年10月に5町村が対等合併して誕生した市である。北アルプスの山岳地帯と山間部及び平たん部から構成されている。人口は減少傾向が続いており、平成22年の国勢調査の人口96,479人と比べ、令和2年の同人口は94,222人となった。また、市全体人口に対する65歳以上が占める割合は約3割となっており、全国の多くの自治体同様、本市においても少子高齢化が進行している。</p> <p>当協議会では、本市の地域性を踏まえ、市全域でデマンド型乗合タクシー「あづみん」(以下「あづみん」と言う。)の運行を行っており、日中は高齢者・障がい者を中心として医療機関等への通院や買い物、福祉施設への移動手段を確保している。また、あづみんの運行前後の時間帯には、市外へ至る重要な公共交通であるJRの2路線間を結ぶ定時定路線を運行し、通勤・通学者の移動手段の確保を図っており、生活交通ネットワークを構築しているところである。</p> <p>当市では、平成30年6月に市地域公共交通網形成計画を策定し、「あづみん」を中心とした日中の生活交通の維持、充実及び朝夕の通勤、通学のための移動手段を確保している。特に「あづみん」については、運行の一部見直しを行うことで利用者の利便性向上や予約の断り件数を減らすことに取り組んでいる。また、令和4年度は「あづみん」の予約管理システムの更新に向けた準備を進め、アプリ予約の導入など新たなサービスを提供するための調整を行った。</p> <p>「あづみん」は平成19年10月の本格導入から16年目を迎え、高齢者、障がい者をはじめとする交通弱者の足として定着しているが、今後予想される高齢化の進行及び自動車免許自主返納者の増加により、公共交通としての必要性はより一層増していくと考えられる。また、観光客やビジネスパーソンなど、公共交通を利用して本市へ来訪される方の二次交通としても機能させていく必要がある。</p> <p>ドアツードア方式というサービスレベルの高さを広く周知することで利用者を確保し、市民の暮らし、来訪者の移動、生活を支える“足”となる持続可能な交通体系の維持、確保につなげたい。</p>